

.....

午前11時05分 再開

○議長（皆川鉄也君） 休憩前に遡り会議を再開します。

次に、9番議員の一般質問を許します。9番須藤正人君。

○9番（須藤正人君） 森田町長が今月の10日に志を半ばにしてご逝去されました。謹んで哀悼の意を捧げるものであります。また、日沼職務代理者、そして数名の幹部職員がコロナ感染によって大変難儀をされたようであります。心からお見舞いを申し上げます。どうかあまり無理をしないので、この職務に当たっていただきたいというふうに思います。

それでは、議席番号9番の須藤正人でございます。通告に従いまして、一般質問をいたします。

新年度予算編成方針と、副町長が町長に出馬する意欲があるのかどうか、これについてお伺いをしたいと思います。

12月に入りますと新年度の予算査定が行われるわけでありますが、町長が不在、そして幹部職員がコロナ感染ということで、この作業も非常に遅れているのではないかとこのように心配をしております。

新年度は様々な課題が残されております。道の駅の移転の問題、さきの議会では過疎地域持続可能発展計画、その追加提案が示されて可決されましたが、ハードな事業がたくさん残っております。

道の駅では、来年の3月、もう概算の予算査定に入るという計画を持っているようであります。しかし、私から言わせると、そんなに急いでどこへ行くという思いであります。もう少しじっくりと検討に検討を重ね、慎重にこの移転問題、移転建設を進めていく必要があるというふうに思っております。各全国各地域のテーマパーク、また道の駅が予算を大きくかけた割には誘客が結びつかなかったというケースが多々あるわけがあります。ハタハタ館と道の駅の相乗効果を生むためには、この計画を本当にお客さんがたくさん来てくれる、そういう慎重な対応が必要ではないかというふうに思います。絶対に急ぎすぎではなりません。議会とも十分議論をして進めていく必要があると思えます。確かにプロポーザルでコンサルタントが選定されました。そのまんまの計画で進めていくのではなくて、肉付けをするところは肉付けをして、削るところは削減する、そんな形の、いろんな方の意見も聞く、そういう進め方をさせていただきたいというふうに

思うわけでありませぬ。

合併の優遇措置がなくなった今、八峰町の新年度予算を組むためには5億円の財政調整基金を取り崩さないと新年度予算が組めない、そういう状態が数年続いております。そんな中で、やはり予算執行に当たっては十分に検討を重ねていく、慎重に対応していく、その姿勢が必要であります。

群馬県の川場村、5,000人程度の小さな村であります。その道の駅を視察してまいりました。川場田園プラザという道の駅であります。農産物のその販売等には、買い物かごを持ったお客さんがごった返してありました。かごとかごがぶつかるぐらいの人がありました。隣の土産店にはレジに長い列が続いておりました。レストランも食堂も満杯でありました。我々に説明をしてくれた理事の方が「正にこの道の駅には川場村の全てがもう入り込んでいる。この道の駅が川場村なんですよ。」というような説明がありました。農産物の集合体、食の集合体、それがこの道の駅田園プラザにありました。高速を降りて30分ほどの、正に田園が広がる本当の田舎であります。そこにこんなに多くの、平日です、こんなに多くの人が来てくれている。それにはやはり、この道の駅で1日過ごすことができる。子どもを遊ばせることができる。そして食を楽しむことができる。買い物ができる。そういう道の駅でありました。これはまた報告会の中で皆さんに詳しく説明をしたいと思いますが、そういう道の駅、ハタハタ館とその新しい道の駅が一体となった、そして多くの人々がここに来てくれる、そういう道の駅をつくるためには、じっくりとやはり研究し、そしてどうしたらこの駅に人が来てくれるのかということの研究を進めていかなければならないと思います。

3月の概算予算査定は性急であります。早すぎます。もうすぐ3月です。我々にもその基本計画がまだしっかりと示されておりませぬ。話し合いも行っておりませぬ。そんな中で、もう概算予算を組んでいく。それは少し、職務代理者、早すぎるんじゃないでしょうか。もうちょっとゆっくりいきましょうよ。大事なんですから、これが。八峰町の観光にとって本当に大事な大きな事業であります。お金も多分かかるでしょう。そのためには、やっぱり議会とも、そして町の各団体とも意見を交わしながら綿密な計画を立てていく、それが必要であります。どうかあまり焦らずに、じっくりと、綿密に、この計画を練っていきましょう。そして、人がこの道の駅にあふれるような、そういう道の駅をつくっていききたいというふうに思います。その私が今言った話をした、それを踏まえた上で、今後のこの計画の展開をお伺いするものであります。

そして、日沼副町長は森田町長の腹心として4年あまり支えてまいりました。森田町長の思い、それを継承するために、後継として次の町長に出馬をするその気概があるのかどうか。もう3週間ほどで告示となります。まだ誰も表明をしておりません。副町長に出馬してほしいという声もあります。今、3週間しかないこの時期において、副町長の率直な出たい、出ませんというはっきりした表明をお伺いしたいというふうに思っております。

以上であります。

○議長（皆川鉄也君） 9番議員の一般質問に対し、当局の答弁を求めます。日沼職務代理者。

○町長職務代理者（日沼一之君） 須藤議員のご質問にお答えいたします。

はじめに、道の駅はちもり移転を含む、御所の台エリア再構築構想についてお答えいたします。

構想策定につきましては、7月25日にプロポーザルの公募を始め、10月17日に企画提案書に基づくプレゼンテーション及びヒアリングを実施いたしました。最優秀提案者に選定されたのは国際航業株式会社秋田営業所で、現在は契約を締結し、現地調査が行われております。今後は、既存施設関係者の意向把握のためのヒアリングの実施や懇談会メンバー等との協議を予定しているほか、ある程度整備イメージが示された時点で、議会の皆様にも説明する場を設けたいと考えております。このように再構築計画を策定する際においても、様々な方々からご意見を伺う機会を設けることとしております。

また、今後の展開といたしましては、策定した構想を基本に、まずは道の駅はちもりの移転作業を進めることとなります。事業実施に当たっては、エリア関係者や議会の皆様と連携・協議しながら、御所の台エリアの再構築が町全体の観光や商工業の振興に繋がられるよう検討してまいりたいと考えております。

次に、「町長不在の中、通年予算か、骨格予算で行うのか。」についてお答えいたします。

令和5年度当初予算の編成については、編成作業に先駆けて、森田町長が不在の中ではありましたが、主要事業ヒアリングを行い、「事業予算の3年見直し」のルールに基づいて事業の必要性や効果などを検討し、新規事業や判断しにくい継続事業については、森田町長の指示を仰ぎ、通常予算を編成することとしていました。

基本方針としましては、町が策定した「第2期八峰町まち・ひと・しごと創生総合戦

略」に基づく産業振興や定住・移住対策、少子化対策に向けた取り組みを推進し、町の羅針盤である「第2次八峰町総合振興計画」の構想・計画に基づいた事業を着実に実行することで、町の将来像「白神の自然と人との創るやすらぎのまち」の実現を図るため、継続性のあるものについては計上する予算編成としています。

「通年予算か、骨格予算で行くのか。」という点については、通年予算に近い形と考えています。

しかしながら、1月9日に町長選挙が行われ、新しい町長が誕生することになります。新たな町長がどのようなことを公約に掲げるかについては未知数ではありますが、すぐに予算化できるものは肉付けし、事業内容の検討や積算等に時間を有するものについては、新年度に入ってから補正予算を計上することで対応するところになるものと考えています。

3点目の「4年半、森田町長を支えてきた流れから、後継として出馬する意欲について」の質問でございますが、現在、これまで支えてきた森田町政を、新しい体制にスムーズに引き継いでいただけるように全力を注いでいるところであります。

したがって、私自身、今この時期に来ても、正直、出馬については白紙の状態です。今はここのお答えでとどめたいと思います。

○議長（皆川鉄也君） 9番議員、再質問ございませんか。9番須藤正人君。

○9番（須藤正人君） 通年予算に近い予算編成方針だというお話でありました。そのことからすると、副町長がそれを継承して継いでいくというような気持ちが心の奥底にあるのではないかと。だから骨格予算ではなくて通年予算を組んで進めていく。そして足りないものを補正予算で補っていくというように聞こえました。

しかし、副町長は今、白紙であるかと。あと3週間のこの中で白紙ということは、今、本当に分からなくなりました。通年予算を組む。そして自分は白紙だと。いやあ、1月の9日に新町長が決まる。それから通年予算に入ってもいいようなものですが、もうこれからはずっと通年予算の方向で進んでいくということでもあります。もう一回、そういうお気持ちが、出馬をする、そのお気持ちはないのかどうか。もう一回お伺いしたいと思います。

それとですね、道の駅移転の問題。いろんな人の話を聞く。今、そう申しました。しかし、概算予算というのは、形がまだ今ないのに3月までに概算予算というのは出るんですかね。これからいろんな団体、いろんな人、議会、話し合っていくんですよね。3

月に概算予算の査定に入る。その計画ですよ、この前の全協の説明で。早すぎるんじゃないですか。これをみんな早すぎて駄目になった施設が八峰町にも結構あるんです。農林水産物処理加工施設、これは議会にさほど相談しないで、もうどんどん進めていきました。閉鎖しました。ハタハタ館に併設している産直の施設。計画どおりにはいなくて、年々売上げが落ちております。それを、あの施設も議会にそれほど説明もなくて、もうどんどん、合併して間もなくでありましたから、もうどんどん進めていった。その結果が今の状態であります。急ぐと駄目なんですよ。で、議会のいろんな意見を出して反対意見もあった。そういう事業というのは、案外駄目になるんですね。ですから、これは本当にゆっくりみんなの意見を聞く。そして進めていく。そうでないと、また失敗してしまいます。大きなお金をかけた。人が来ない。こんなハタハタ館では駄目なんです。ハタハタ館でなくて道の駅では駄目なんです。本当にハタハタ館と道の駅が一体となって相乗効果を生み出して、ハタハタ館の経営も上向きになる、そういうような道の駅をつくっていかなければならないというふうに思います。副町長、もう一度お願いします。

○議長（皆川鉄也君） 9番議員の再質問に対し、当局の答弁を求めます。日沼職務代理者。

○町長職務代理者（日沼一之君） ただいまの須藤議員のご質問にお答えします。

まず一つは、この予算のあり方ですね。これは先ほどの説明させていただきましたけれども、私と森田町長が引き継いだ時も通年予算でした。そこを精査しながら町長の新しい公約を次の補正、これからスタートいたしました。まあそういうところで、実はこの予算、主要事業等は森田町長とやりとりしてるんです、今回。だからそういう思いを込めて、まさか途中でね、こういうような事態になるとは想定してない。こういうことを進めていきたい、こういうことをやるべき、そこはもうちょっと考えさせてほしい、こういうところでとどまったところなんです。ですから、それはやっぱり継承して、今までもいろんな方々からご意見をいただいた継続的な政策でございますので、それは引き継いでいけるだろうと。まあどなたになるか分かりませんよ。だからそういうことで通年という考え方です。

それで、まあ最終的に一番大きな問題、出馬の気持ちっていうことですが、やはり4年半近く森田町長支えてきて、どれだけこの重いものを背負っているかというのは私も十分分かります。やっぱりこの今のね情勢の中で、高い志と強靱な体力、気力、こ

れが果たして私の今現在の中にどうなのかっていう問いを本当毎日のように悩んでいます。だからそこはね苦しんでもがいてはいます。だからそのことはしっかりしなくちゃいけないという思いも十分あるんですけども、その辺の闘いを今も実は本当に悩み悩んでるということでございますので、本当に申し訳ないんですけども、今の時点でどうなのかって伺われても、先ほど言った責任という、町長っていう重さを考えた場合に、今の自分の年齢、これからのことというのは、今の健康状態とか自分の置かれた状態、これ自分にしか分からないです。大変申し訳ないですけども、いろんな声をいただいて本当にこの上ない光栄なこともございますけども、そういうことに応えていくというのは非常に重いことなので、そこを考えた場合に、そうね、今こうだああだというのは、本当この果てで本当まだぐらついてるという自体が自分でも問題だなという思いではありますので、本当に申し訳ありませんが、そこにとどめさせていただいたということでございます。

あと、道の駅移転、これにつきましては、須藤議員おっしゃるとおりでね、まず森田町長も、まずは道の駅の移転、これを一点に考えながら、あとはじっくり提案されたものが果たしてどう生かせるのかということに関係者の皆さんとよく話し合いしながら、年次で進めていければなど、こういう基本的な考えでございましたので、それはしっかり踏襲して、そのとおりでと思います。まして、また急いではいいものはできないので、これはその骨格となる道の駅の移転というのはまず必要だという前町長の認識でしたので、そこを主体に考えた計画だということを皆さんにもご理解いただきたいと思います。

以上でございます。

- 議長（皆川鉄也君） ほかに質問ございませんか。9番須藤正人君。
- 9番（須藤正人君） 終わります。
- 議長（皆川鉄也君） これで9番議員の一般質問を終了いたします。